



大阪府の道路交通調査

丹波浪人

道路行政の目的とするところは、唯だ靜的交通機關としての道路を施設する範圍に止るのであるか、夫れとも更に進んで動的交通機關の範圍にまで這入るべきものであるかは、議論のある點である。經濟學者は交通機關と交通用具とを區別して所論するのが普通であるが、行政の見地からすれば假令夫れが學理上分離して取扱はるべき事柄であるにしても、夫れを綜合統一して行政することは實際生活の便宜からして必要な事であつて、我が道路法も亦其の趣旨

に因つてゐることは、筆者の常に主張するところである。従つて道路行政の局に當る者は、動的交通機關としての道路を目的として行政することを必要とするのであつて、常に路上の動態を重視し所謂交通を指導するの考察を怠つてはならぬ、即ち路上交通を調査して道路を築造施設すると同時に交通を統制することを要するのである。此目的を達する一つの手段として行はるゝのは交通情勢の調査である、曩年本會が全國に互つて調査を行つたのも

敘上の趣旨を徹底せしめたい爲であつたが、一回や二回の調査を以てしては完全な結果を得ることは至難である。爾來地方廳の諸君が定期に之を調査して完全な路政を執行されるものと思つてゐたが餘り調査の續行されたことを耳にしないので頗る不滿に感ぜられた。然るに今回大阪府からの報導に依ると、同府に於ては八月十七日、十八日の兩日に互つて府下の國道と重要府縣道の交通調査を開始し其の結果を發表された。

大阪府道路交通調査報告

昭和三年度に比較し今回の調査に顯れた著しき變化事項
 一 高速度車輛は激増し低速度車輛は激減す

種別	昭和三年	昭和六年	増加率
自轉車 (澁川大橋)	八、四〇〇 (同上)	二、四、八二	約二倍増
自動自轉車 (同)	三三三 (同上)	八九	約二倍半増
乗用自動車 (同)	六七三 (阿部野)	三、九六	約六倍増
貨物自動車 (同)	八三三 (澁川大橋)	二、三三四	約三倍増
荷車 (今宮)	一、一五五 (澁川大橋)	八〇六	二割五分減

- 牛馬車 (澁川大橋) 一、二五五 (澁川大橋) 七六三 割減
- 二 乗合馬車前回四臺のもの今回一臺となる
- 三 人力車前回四一臺のもの今回五三臺となりたるも貨物運搬に使用せるもの多數見受く
- 四 阿部野堺線新道開通の結果著しく交通量を増加す
- 乗用乗合自動車に於て前回は阪神國道澁川大橋に於て六七二臺を最高とせしものなるが今回は阿部野町にて三、九三四臺を算し第一位を占む

貨物自動車に於て前回最高澁川大橋に於て八四二臺なりしも今回阿部野町に於て一〇五七臺を算し第三位を占め自動自轉車に於て第二位自轉車荷車に於て第三位を占む

五 高速度車輛の普及せしことを認む

即前回調査に於ては自動車の交通皆無にして今回相當の交通を見たる箇所八個所に達し又前回より車輛の増加を見たる箇所は一八一個所の多きに達せり

六 調査箇所二三三個所に於ける交通車輛換算重量總合計に於て昭和三年度は八三、一五三なりしもの今回は二二

三、九二三即約五割の増加を示せり（車輛換算重量は盈牛馬車を單位一とし乗用自動車一・五貨物自動車三・五等とす）右は財界不況の今日に於て貨物移動の増加を示すものにして主として自動車による經濟的輸送の發達せる結果と見るを得べく現時の所謂不景氣時代に思ひ合せて皮肉の感なき能はず

七 自動車の交通調査個處通過臺數

前回は一七、七六九臺なりしも今回は四〇、〇一九臺即約二倍三步の増加にして是れはガソリン消費量の増加割合を示すものと考ふる事を得べし

以上の報告に就て見ると、高速度車輛が激増して低速車輛が漸減の状態に在るのは、社會一般の趨勢である事を物語るものである、併し本報告は概要を掲げたものであるにしても昭和三年の交通量と今回との比較に於て觀測地點を異にしたものが對照してあるのは餘り意味が判らない。是等の報告は矢張り一般公衆に交通の狀況を知らしめて夫れに處する府民の自覺を喚起するの必要もあるので成るべく

素人に判るやうに表示せなければならぬが、此考察に缺けてゐる嫌のあるのは惜しいことである。併し夫れは夫れとして、此報告では本誌六月號に報導した府縣道阿部野塚線の改良工事が大阪市南部郊外に於ける交通に一大變革を來したことである。即ち此府縣道の交通が淀川大橋の架つてゐる阪神國道よりは自動車交通が多いと言ふことは、目下政府が執行する紀州街道の改良が如何に重要なものであるかを物語るものであつて、面白い結果を表はしてゐる。尙詳細に研究すれば此後大阪附近に於ける路政をリードする澤山の資料を得るであらう。

此く今回大阪府で執行されたやうな交通調査が各地に互つて繼續して執行され、筆者共の希望するやうに理論的に路政が執行さるゝやうに爲れば、交通の實際に即した道路が出来て路上交通を指導するやうになる、之を想ふと、之を實行された大阪府殊に澁江土木部長の賢明を賞え、同部長を始め部下の努力に對し感謝するのである。